

三原氏「問責は愚か者の所業」 二階氏「選挙一生懸命なら予算付ける」

参院選がスタートした。表面上の争点は、年金や消費税増税、改憲などだろうが、今この国で問われるべきなのは、もっとずっと深刻な問題ではないか。それは、国会議員が国民を「侮る」言動である。前回二〇一七年の衆院選以降、多くの国会議員が、数々の問題発言や身勝手な政策で主権者たる国民を見下してきた。選挙中は、国民に奉仕するかのような甘言を弄するかもしれないが、決してだまされてはいけない。「有権者をなめるな！」

(榊原崇仁、安藤恭子)



街頭演説を聞く有権者の4日、東京都内で

不適切発言連発の麻生氏 首相は議論避け

先月二十四日の参院本会議。安倍晋三首相の問責決議案の審議で自民党の三原じゅん子参院議員がこう訴えた。「安倍首相に感謝こそすれ、問責決議案を提出するなど愚か者の所業」。同党の二階俊博幹事長は同二十九日、参院選候補も出席した会合で「選挙を一生懸命やってくれるところに予算を付ける」。支持者以外の有権者など、いないも同然なのか。二人の言葉からは「われらの総裁は無条件にありがたい存在」「国民の税金はわれらの思うまま」とのおごりがにじむ。

参院選2019
民、侮るな

差別発言も目立った。杉田水脈衆院議員(自民)は昨夏、性的少数者は「『生産性』がない」と月刊誌へ寄稿。山本幸三衆院議員(同)はアフリカ支援に熱心な議員の会合で「何であんな黒いのが好きなんだ」とくさした。社会的弱者も軽んじる。昨年三月の参院予算委員会の公聴会で、渡辺美樹参院議員(同)は過労死家族を前に「働くことが悪いように聞こえる。週休七日が人間にとって幸せなのか」と発言。今春、桜田義孝五輪相(当時、自民)は「(同僚議員は)復興以上に大事」と述べた。過大な防衛負担を負わされた沖縄県民、戦争の犠牲者にさえ配慮がない。昨年一月、沖縄県で相次いだ米軍ヘリコプターの不時着を巡って「何人が死んだんだ」と衆院本会議でやじを

飛ばしたのが松本文明内閣府副大臣(当時、自民)。今年五月、丸山穂高衆院議員(当時は日本維新の会)は、北方領土の元島民に「戦争でこの島を取り返すのは賛成ですか」と迫った。政権中枢からも定期的にひどい言動が飛び出す。麻生太郎副総理は森友学園の公文書改ざん問題で原因を問われると「それが分かりや苦勞せん」とまるで人ごと。財務事務次官のセクハラ疑惑では当初、「はめられたとの意見もある」と次官をかばった。先月、金融庁審議会の報告書の公表後、「百歳まで生きる前提で退職金を計算したことあるか?」と「上から目線」で語ったのに、「年金以外に三千万円必要」が問題視されると「政府のスタンスと違う」と態度を一変。もはや失笑もできない。

安倍首相は沖縄県名護市辺野古の新基地建設で、土砂投入現場と違う区域のサンゴをわずかに移植しただけなのに「サンゴは移している」と胸を張り、建設に反対する大多数の県民の感情を逆なでした。先月末の二十九日、地域首脳会議の夕食会でも、大阪城の復元時にエレベーターを設置したのは「大きなミス」と評し、障害者らが反発した。失言以上に問題なのが、都合の悪い議論を避ける態度。共産党の富裕層への課税強化などによる年金底上げ提案を首相は「ばかげた政策」と愚弄。動画サイトの党首討論会で選択的夫婦別姓の是非を問われると「経済成長と関わりはない」と意味不明の回答に終始した。背後で、膨大な有権者が議論を聞きたがっていることなど、完全に無視だ。

弱者軽視「上から目線」

ちろ特報部

我田引水の参院定数増 カジノ法案も強行採決

た法案を見ても、有権者はなめられている。その最たるものが、この人口減少時代に、あえて参院定数を六増する公職選挙法の改正だ。昨年七月に自民、公明などの賛成多数で可決。この参院選から適用される。

参院の定数増は、沖縄の本土復帰に向けて選挙区を設けた一九七〇年以来で、事実上初めて。「鳥取・島根」「徳島・高知」の合区を維持する一方、比例代表の定数を「特定枠」として四増やす。埼玉の定数も六から八に増やす。

「一票の格差」是正を理由としているが、「特定枠の新設は、いかにも筋が悪い」と、薬師寺克行・東洋大教授（現代日本政治）は述べる。特定枠の候補は、得票が少なくても優先的に当選できる一方、選挙事務所設置や個人演説会などの運動が認められていない点に着目し、この疑問を呈する。「合区によって候補者を出せない県に配慮した露骨な救済策で、自民党の利益誘導にすぎない。選挙運動を禁じられた候補者が特定枠で当選しても、有権者はこの候補者がいかなる人物か知りようもない。民主主義的な選挙を否定し、有権者が軽視されている」

昨年七月の通常国会で

「品格失い忖度が横行」



は、カジノを含む統合型リゾート施設（IR）整備法案が、「ギャンブル依存症への懸念が払拭されない」として野党が反対する中、強行採決された。

ところで、これらの法案が審議された昨年七月、日本は九州から岐阜県までの広い範囲で「西日本豪雨」の被害に見舞われていた。気象庁は「数十年に一度の大雨」を警告する特別警報を発出。河川氾濫、土砂災害が多発し、死者は二百人を超えた。水害対応のどさ

参院予算委の統計不正問題などの集中審議に臨む（右から）茂木経済再生相、麻生財務相、安倍首相

参院本会議で、野党にさざなみ発言する自民党議員の三原じゅん子議員



くさに紛れ、国民の間でも強く問題視されていた法案が可決された形だ。

かといって、災害対応が万全だったわけではない。自民党議員は総裁選をにらみ、豪雨初期の夜、議員宿舎で「赤坂自民亭」なる宴会を開催。参加議員が安倍首相を囲んで酒に興じる笑顔の写真をツイッターに投稿し、「被災者軽視」と批判された。

法案成立のため、誤ったデータが国会に提出されたこともあった。裁量労働制拡大を巡る議論だ。「裁量労働制で働く方の労働時間は、平均的な方で比べれば一般労働者よりも短いというデータもある」。安倍首相がこう答弁したのは昨年一月の衆院予算委員会。厚生労働省の二〇一三年の調査によれば、一般労働者の一日の労働時間は、残業分を含め「九時間三十七分」、

裁量労働制で働く人は「九時間十六分」だった。

これが「不自然」と追及され、調べ直したところ、一般労働者のデータは「二カ月で残業が最も長い日」の聞き取り結果と分かった。安倍首相は答弁を撤回、裁量制拡大も法案から削除されたが、これほど国民をばかにした話はない。

一七年十月の総選挙から一年半余り。繰り返される有権者への「侮り」をどう捉えるべきか。

「選挙で傲慢政治家退場を」

は、戦後ありません

私たちは有権者は、侮られっぱなしでいいはずがない。「洋の東西を問わず、おごれる政治は久しからず。あきらめたり絶望したりせず、参院選では、まじめで謙虚、国民に尽くす候補者に投票しましょう。傲慢な政治家には、退場いただくしかない。ばかにされ続けた野党議員には、もっと強い怒りをもって戦ってもらいたい」

メッセージ

どんな政策よりも、健全な民主主義の維持は優先されねばならない。主権者を見下す議員や政党は、この点で失格だ。有権者は問題議員の多さにあきれるかもしれないが、棄権は絶対ダメ。それも民主主義の破壊につながる。気に入らなくても、対候補補や対抗政党に一票を投じよう。（典）



衆院内閣委で、野党議員の質問に自民の杉田水脈議員